

## 津幡町の神社と祭神の分析 中条地区の神社

宮本眞晴

河北潟湖沼研究所河北潟歴史委員会<sup>1</sup>  
〒920-0051 石川県金沢市二口町八58

要約：石川県津幡町の中条地区の神社について調査をおこなった。それぞれの神社の沿革や祭神についての調査記録をまとめた。

キーワード：津幡町，中条，神社，祭神

## はじめに

萩坂谷・倶利伽羅谷・笠谷・旧津幡四町及び横浜(旧井上村)・種谷及び英田地区(旧東英田村)に続き、今回は中条地区の神社について考察する。

中条の名は、古代の条里制に拠るといふ。「中条」が出てくる記述には下記のものがある。

前室町管領細川政元に同行し、京都から越後へ向かった冷泉為広はその日記「冷泉為広越後下校日記」に、延徳三年(1491)三月十二日朝、米泉(金沢市)の洲崎慶覚(一向一揆の頭目)の居館を出発し、増泉・石坂を経て、犀川を徒歩で渡り、山崎(現在の金沢の中心)を通り、浅野・柳橋・森本・太田・「中条里」浅田と過ぎ、竹橋で昼休みをとっている。

(「石川県の歴史」)

天正八年(1580)閏三月、佐久間盛政は木越光徳寺を攻撃すべく中条から向かった。

(加賀志徴)

## 中条地区の神社・祭神・沿革

以下、それぞれの集落・神社・祭神・沿革について石川県神社誌に基づき、河北郡誌、津幡町史、加賀志徴(巻13)・平凡社「石川県の地名」の記述を付すとともに、考察を加えた。

「河北郡誌」「加賀志徴」は転記の際、旧漢字・仮名等を書き換え、適宜、句読点、読み仮名を加えた。

文中の年号に西暦を加えた。

【江】は江戸期の集落の様子を示す。

神社名は石川県神社誌に拠った。

1. <sup>いのうえみわ</sup>井上三輪神社 旧村社 浅田へ77(写真1)  
<sup>おおもものぬしのみこと</sup>主祭神 大物主命

由緒 創立年代不詳。もと井上神社と称し明治六年村社に列す。明治四十一年五月、明神鎮座(うすいけ)神社を合併。昭和二十三年白池神社分離。

(神社誌)

<sup>あまてらすのおおかみ</sup>字浅田に在り。村社にして大物主命・天照大神を祭る。明治六年六月村社に列せられ、同四十一年五月一日倶利伽羅村明神谷内に在りし村社白池社を合併するの許可を得、同年六月三日之を合祀せり。

(河北郡誌中條村)

主祭神 大物主命

参考 もと井上神社と称したのを昭和二十八年に古称の井上三輪神社に改称す。明治四一年に合併した明神の白池神社は昭和二十三年に分離した(遷座は同四十三年)。宮司は加藤治男氏。古屋敷 津幡中学校南の台地。江戸時代初期に、集落を全焼し徐々に現在地に移転した。その近くに麻畑とよぶ小字がある。

(津幡町史)

麻田 浅田村。

浅田の邑名はもと麻田にて、此地に多く麻を植たる故の名にて云々。

(加賀志徴)

<sup>1</sup> 連絡先 tel.076(288)2409 fax.076(288)2962



写真1. 井上三輪神社. 五輪塔が見える.

【江】寛文年間(1661~72)百姓数15(高免付給人帳). 産物, 菜種・蚕繭・布・楮皮(「村々諸産物書上帳」新田家文書). 天保年間(1830~44)の家数31(うち頭振2)人数206(「河北郡村々調理書上帳」林文書)安政二年(1855)家数32(うち, 頭振5)人数190(高免家数人数等書上)

(平凡社「石川県の地名」)

【考察】

・浅田には現在寺院は無い. 天文三年(1534)現金沢市南森本町の光円寺が古屋敷にあった. 国立工専の敷地内「御坊山」はもと光円寺の花畑の跡. 元和四年(1618)津幡村に移転, 慶安二年(1649)南森本へ移転.

(津幡町史)

・中橋久左衛門紀功碑 旧国道8号線沿いの丘に建つ. 中橋久左衛門(?~寛延三年(1750)9月23日)は中橋村生まれ. 父, 九兵衛は人格, 頭脳もよかったので元禄六年(1692)笠野組の十村を命ぜられる. 久左衛門は父の仕事を支え, 宝永六年(1709)父の後を襲い, 十村役となる. 宝永正徳の交(年号の切り替え時・1711年)河原市用水(浅田用水)を完成. その功により藩主から「中橋」の姓を賜る. 津幡地内(津幡・加茂・谷内・御門)羽咋郡内(羽咋市宇土野・柳田・宝達志水町菅原・杉野谷)に堤(用水池)を作る. 老後は浅田村に住み, 寛延三年死去. 墓は浅田の墓地の一番奥右側にある.

用水工事は貞享二年(1685・三年の説もある)着工. 森本川(河北郡岩出村)から津幡川(加賀爪

村)まで続いていた. 取水口は, その後上流の河原市村に移した. 両川の水位差は4m. 総延長は1万1127m. 勾配は約2千500分の1. 津幡川を越え, 舟橋まで用水が伸び13Km. また別に森村(旧宇ノ気町)まで伸びて1万3745mという記録もある. 流速は時速300mほど. 用水建設の記録や久左衛門の詳しい記録はあまり残っていない. 火事により現在地に集団移転したことなどで中橋家にも記録が残らなかったらしい.

(河原市用水誌)

・津幡高校前の陸橋から冬枯れの井上三輪神社を見ると, その山容は「神奈備」そのもの. ぽこりと丸く, まさに『神坐します』という感じである.

2. 少彦名神社 旧村社 浅谷ト72

主祭神 少彦名命

由緒 長禄三年(1459)に勧請の宮. 大祭の折り, 自然薯を各戸より奉献し, 撤下の薯を湯釜に煮て拝服する神事(ながいも)在り. 薬師薯神事と申す. 明治六年村社に, 同三十四年拝殿を増築. 同四十年十二月浅野深谷八幡社を合併. 少彦名社を少彦名神社と改称. 対称年本殿, 幣殿を新築. 昭和八年神饌幣帛料供進神社に指定せらる.

(神社誌)

字浅谷に在り. 村社にして少彦名命・応神天皇・神功皇后・比咩大神を祭る. 明治四十年十一月七日 同村字浅野深谷の村社八幡社合併の許可を得, 同年十二月十一日之を合併せり.

(河北郡誌 花園村)

主祭神 少彦名命・応神天皇・神功皇后・比咩大神

参考 長禄三年の勧請と伝え, もと八郎山に鎮座したのを神告により現在の西の峰に遷座. 明治四十年浅野深谷の村社八幡社を名目だけの合併をなす. 宮司は田近博守氏.

(津幡町史)

【江】谷山村は浅野谷村(現津幡町浅谷)と俵原村(現金沢市俵原町)の中間に位置. 元和四年(1618)ころ榎尾村から分村(「温故集録」加越能文庫). 寛文年間(1661~72)の家数1・百姓数1(高免付給人帳). 天保年間(1830~44)の家数

1, 人数 5(河北郡村々調理書上帳) . 明治八年家  
 廃絶のため浅谷村に編入 . 神社跡がある . 浅野  
 谷村の寛文年間(1661 ~ 72)家数 8, 百姓数 13( 高  
 免付給人帳 ). 天保年間(1830 ~ 44)の家数 53( う  
 ち頭振 10 ) 人数 201 馬 1(「河北郡村々調理書上  
 帳」林文書)

少彦名神社は明治 40 年南隣の浅野深谷(現金沢  
 市浅丘町)の八幡社を名目上合祀した . 薬師様と  
 もいわれる .

( 平凡社「石川県の地名」)

【考察】

・少彦名命を祀る神社を持つ集落には温泉, 鉱泉  
 の存在が多い . 神社誌の記述に薬師薯に(なが  
 いも)と仮名が振ってある . 自然薯に薬効をみ  
 ているのか . 平凡社「石川県の地名」浅野深谷村  
 (現金沢市浅丘町)の記事をみると, 同地の『東  
 谷では鉱泉が湧き出るといふ .』とある . 隣村は  
 浅谷に近い 10 件ほどの小さな集落で鉱泉も出  
 る . 浅谷も昔出たのか . 記述は見えていない .

・河北郡誌花園村の記述に, 「 東谷鉱泉 字浅  
 野深谷小字東谷に湧出 . 明治二十一年の試験に  
 拠れば, 原泉水は褐色透明無臭にして反応は中  
 性なり . 塩酸の多量・燐酸・硫酸・加爾基・亜  
 爾加里の少量・炭酸・暗謀尼亞の微量・鉄の痕  
 跡を有す . 大正四年此泉水を用いて津幡町に浴  
 場を開きしものありしも今廃せり . 」とある .

(河北郡誌)

3. 三輪神社 旧村社 北中条サ 2 乙

主祭神 大物主神・菊理媛神・経津主命・  
 武甕槌神・天兒屋根命・比売神・稻倉魂命

由緒 仁明天皇承和三年(836)創立の延喜式  
 内(註1)の三輪神社と伝えられる . 古来, 井上郷  
 十七村の総社として仰がれ, 藩主前田家の崇敬  
 熱く三代利常夫人の天徳院が慶長十八年社殿を  
 建立, 翌年能を奉納 . 山王社, 日吉社とも称せ  
 られて来た . 明治四十年同字鎮座野間神社・春  
 日神社・今倉社を合併 .

( 神社誌 )

字北中條に在り . 村社にして大物主命・大山昨  
 命・菊理媛命・武甕槌命・経津主命・天兒屋根  
 命・比売大神・倉稻魂命を祭る . 仁明天皇承和

三年の勧請にして, 式内の三輪神社なりと伝う .  
 相殿大山昨命は, 治承中(1177 ~ 80(83))近  
 江国阪本の権禰宜実達と云う者, 当社に來りて  
 神主となりしが, 元其産土神たりしを以て, 之  
 を撰社として奉祠せしに, 後其社殿焼亡するに  
 及び, 三輪神社の相殿とせしなりと云う . 明治  
 六年六月十四日中條社号を日吉神社と改め, 同  
 十四年十月三輪神社と復旧せり . 同四十年八月  
 十九日同字野間神社・春日神社・今倉社を合併  
 の許可を得, 同四十一年五月十七日之を合祀す .

(河北郡誌 中條村)

主祭神 大物主命・菊理媛神・経津主命・武甕  
 槌命・天兒屋根命・比売神・稻倉魂命・大山昨  
 命

参考 もと山王社・日吉社等ともよばれ, 明治  
 十四年現社名に改称, 延喜式内の三輪神社とす  
 る所伝のある旧社 . 明治四十一年に同字の無格  
 社野間神社・春日神社・今倉社を合併 . もと栗  
 本家が奉仕した . 宮司は加藤治男氏 .

(津幡町史)

同山王社 北中条村 . 社人栗本・布施両氏 .  
 貞享(1684 ~ 87)之社記に, 加賀郡北中条山王  
 は, 承久二年(1220)に勧請 . 井上庄十七村の  
 産神 . 古は社多く有て, 社領も之有 . 中比大破  
 及 . 天徳院君聞召, 山王は御産神也 . 殊に当村  
 は御化粧料なる処, 御知行所に山王社鎮座なれ  
 ば, 殊更御崇敬成被 . 慶長十八年(1613)本社  
 拝殿御再興あり . 則興津内記等奉行にて, 遷宮  
 の時神事能仰付られ, 米三十俵御寄付御札之上  
 とあり .

(加賀志徴)

【考察】

・石川県神社誌に記載漏れの大山昨命は日吉大社  
 (山王社・滋賀県大津市坂本) 東本宮の祭神(西  
 本宮は大己貴命) .

・大物主命は三輪神社の祭神であるが, 明治期に  
 合併された祭神は, 春日神社(経津主命・武甕  
 槌命・天兒屋根命・比売神)今倉社(稻倉魂命)  
 残る野間神社の祭神は菊理媛神・大山昨命とな  
 る . しかし, 菊理媛命は白山神社, 大山昨命は  
 日吉神社の祭神 . 河北郡には旧河北郡小坂村に  
 「野間神社」があるが祭神は「草野比売神(野稚



写真2. 三輪神社(北中条). 五輪塔が散在する.

神の別称「野の神」旧石川郡玉鉾村「野間神社」の祭神は「豊宇賀能売命(倉稻魂命の別称)」である.

- ・加賀郡式内社三輪神社に比定されているもう1社は金沢市本多町の石浦神社である.
- ・二つ屋事件跡 文禄元年(1592)四月十四日, 前田都利長の家臣どうしの斬殺事件跡. 現場は「津幡の際」(「老拙摘録」一八), 「津幡と中条の間, 二屋と申所」(「漸得雜記」), 「津幡より十四五町末の中条との間二屋に出」(菅君雜記三)に発生した. 津幡川から約五~六〇〇m南の現横浜の街道と推定される. ここの小屋で待ち伏せした二人が, 津幡まわりで来た五人を襲い四人を討ち果たし, つづいて舞台は守山(高岡)に移り, 一〇〇人以上の乱闘になった. 「杉瀬越と申近道」(「加賀藩史料」)という津幡抜きの脇道は確認できない.

(北陸道(北国街道) p61)

- ・神社境内には宝篋印塔・五輪塔が散在している(写真2).
- ・明治期, 日吉神社を名乗らず三輪神社を名乗れば社格も上がり, 式内社に比定されることは容易だったかもしれない. 加賀神社を県社にした潟端と対照的.

#### 4. 八幡神社 旧無格社 南中条リ 45

主祭神 菅田別尊・氣長足姫尊・比咩大神

由緒 もと延喜式内小浜神社境内摂末社にして天正十四年(1586)五月前田利家小浜神社の摂末社数十社を再興修理されたるが, 翌十五年八月

小浜神社境内より当地に移転造営す. 明治六年八月石川県より小浜神社附属社に取りきめらる.

(神社誌)

字南中條に在り. 無格社にして菅田別尊・氣長足姫命・比咩大神を祭る. 旧と内灘村小浜神社の境内なる末社の一なりしが, 天正十四年五月前田利家其再興を企て, 為に米一百俵を賜いし時, ここに遷座せしものなりという.

(河北郡誌 中條村)

主祭神 菅田別尊・氣長足姫尊・比咩大神

参考 国道8号線沿いの山手に鎮座, もと八幡宮と称した. 小浜神社附属社. 宮司は斎藤政紀氏.

(津幡町史)

字南中条の八幡神社境内に在り. 今其上方の土砂墜落して内部を窺う可からずと雖も, 土人の言によれば, 入ること10間にして尚奥を知らずといえ場, 考古学上の所謂横穴にはあらざるなり.

(河北郡誌)

【江】寛文年間(1661~72)の家数10, 百姓数14(高免付給人帳). 天保年間(1830~44)の家数36(うち頭振26), 人数215, 馬7(「河北郡村々調理書上帳」). 安政二年(1855)家数44(うち頭振24)人数216(高免家数人数等書上)

(平凡社「石川県の地名」)

#### 【考察】

この神社の参道は北中条の神社と同じく, 北陸本線・次いで旧国道8号線・159号線で集落より寸断された. 神社は小高い丘の中腹から集落を見下ろしている.

#### 5. 八幡神社 旧無格社 太田タ 268

主祭神 菅田別尊・氣長足姫尊・比咩大神

由緒 もと延喜式内小浜神社境内摂末社にして天正十四年五月前田利家小浜神社の摂末社数十社の再興修理せらる. 同十四年八月小浜神社境内より当地に移転造営す. 明治六年八月石川県より小浜神社附属社取りきめらる.

(神社誌)

字太田に在り. 無格社にして菅田別尊・氣長足姫命・比咩大神を祭る. 旧と内灘村小浜神社の

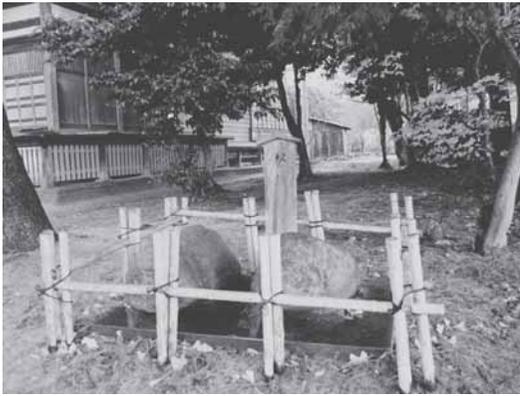


写真3. 八幡神社(津幡町太田). 磐持石.

境内に鎮座せしを、天正十四年十月此地に遷座し奉りしものなりという。

(河北郡誌)

主祭神 誉田別尊・氣長足姫尊・比咩大神

参考 太田の南出に鎮座、境内に大杉あり。小浜神社附属社。宮司は斎藤政紀氏。

(津幡町史)

太田古戦場 白山宮荘殿講中記録・享祿四年(1531)十月、越前能登越中三ヶ国武士乱入。能登越中衆陣太田。当国衆陣山崎窪市也。越前衆陣寺井湊也。然共十一月二日太田合戦。(後略)

源平盛衰記卷三十一に、寿永二年(1183)七月二十二日勢多軍之段として平知盛と源氏方の加賀住人太田次郎兼定の名が登場。

太田城址 三州事蹟誌に、太田村領山に古城跡あり。太田和泉守居すと云伝えり。

太田争戦 関谷政春の古兵談に、賀州河北郡太田村にて合戦仕たる者、石川郡の一揆大将須崎兵庫と云者也。越後の人数一万余騎と云。十月六日大雪の夜、須崎五百余にて山手より押寄、夜合戦、越後勢敗北也。又云、須崎兵庫と云ふは一揆の大將なり。越後謙信一万余騎にて十月比なるに、加州へ発向して河北郡の内中條村・太田村に陣取。其日大雪にて人々中條・太田の在家へ入て寒気を防俱。夜に入て須崎兵庫八百計にて、山手へ廻り夜軍を懸たり。謙信一羽もあはず討負、越後へ敗軍也。此時越後をどりはやる。輝虎さまは関東表はお照しあるが加賀の鐘にはお曇りやるのふおくもりやる。と天下に下々謡ひたると也。(後略)

(加賀志徴)

寛文年間(1661~72)家高数22・百姓数33(高免付給人帳)。明和八年(1771)大火で約100戸消失(加賀藩資料)。文化二年(1805)家数82(うち頭振<sup>あたまび</sup>(註2)57)・人数350,馬8(河北郡村々調理書上帳)。安政二年(1855)家数89(うち頭振57)・人数473(「高免家数人数書上」亀田文書)。(平凡社「石川県の地名」)

#### 【考察】

・北国街道は津幡町太田から金沢市の利屋町へと入る。「三州測量図籍」に太田と利屋町との間に一埋塚が描かれている。その場所は津幡町と金沢市の境界線から金沢へ一〇〇m入った位置になる。(後略)

(北陸道(北国街道) p63)

・神社境内には磐持石が2個ある。(写真3)

・加賀志徴 太田争戦の記述は天正五年(1577)上杉謙信が七尾城を陥落した頃の話と思われる。この記録は上杉方には無く、手取川の合戦で織田方が上杉方に惨敗した話は織田方の記録には無い。

(加賀志徴)

#### 6. 住吉神社 旧無格社 太田カ207

主祭神 底筒之男神・中筒之男神・表筒之男神

由緒 同町鎮座八幡神社に祀る神なりしを、慶長三年(1598)別に社殿を建築分祀して住吉神社と称す。明治六年八月石川県より小浜神社附属社に取りきめらる。

(神社誌)

字太田に在り。無格社にして底筒男神・中筒男神・表筒男神を祭る。初め前記八幡神社の相殿なりしを、慶長三年別に本社を建てたりという。

(河北郡誌)

主祭神 底筒之男神・中筒之男神・表筒之男神

参考 太田の北出にあり、もと南の八幡神社の相殿に祭られていたものと伝える。小浜神社附属社。宮司は斎藤政紀氏。

(津幡町史)

字太田の南端に一の地蔵堂あり。往昔此の付近に寺院ありしが、後金澤に移り、此堂を置きて以て其地を表すという。

(加賀志徴)

7. 加賀神社 旧県社 潟端ト10

主祭神 たけみなかたのみこと やさかたのみこと 健御名方命・八坂刀売命・誉田別命・  
前田綱紀 まえだつなのり

由緒 元禄年間(1688～1703)加賀藩主前田綱紀此の地の洲沢を開墾し、開設し藩主守護神として諏訪神社を創設する。享保九年(1724)五月九日藩主霊璽を納め、誉田別尊(ママ)をも勧請し、八幡神社と号す。明治四十一年両社合併松雲神社と改称、同四十二年加賀神社と改称、大正三年県社に昇格。

(神社誌)

字潟端新に在り。県社にして健御名方命・八坂刀売命・誉田別尊・前田綱紀公を祭る。始め元禄年中加賀藩主前田綱紀公河北潟の畔を開墾して潟端新村を置かしめ、業成るの後公親ら之を検す。村民公の徳に感じて守護神となし、為に本社を創建して潟端諏訪神社と号す。後明治四十二年一月本郡花園村利屋町に鎮座せる無格社八幡社を合併して松雲神社といえり。蓋し利屋町小字七ツ屋は潟端新の出村にして、其の八幡神社には誉田別尊を祀り、綱紀公の神体は諏訪神社にあるに拘らず。神社明細帳には之を七ツ屋にあるが如く記載され、名実相違せるものあるを以て、互に協議して許可を得たるものなり。同年十二月社号を加賀神社と更む。これ綱紀公を松雲公そのこうごというは、其薨後の法名松雲院徳翁一斎大居士といえるに抛り、法名を社号とするを非なりとする意見によりしなり。爾後本社は大に世の注意を惹き、前田侯爵以下多数崇敬者の献金によりて社殿を改造し、大正三年六月二十七日県社に列せられ、同四年五月十七日神饌幣帛料供進社に指定せらる。其祭日を六月九日とせるは公の薨去が享保九年(1724)五月九日なるによる。

(河北郡誌中條村)

主祭神 たけみなかたのかみ 建御名方神・八坂刀売命・誉田別尊・前田綱紀

参考 五代藩主前田綱紀(松雲公)の時代、延宝元年(1673)より河北潟縁の開拓が始められ潟端新村が成立した時、守護神として諏訪社を



写真4. 加賀神社(潟端). 狛犬の阿吽が左右逆.

創立したのに始まり綱紀を在世中に奉祀したともいう。明治初年に無格社。同四十二年に花園村利屋町七ツ屋の無格社八幡神社(誉田別尊・前田綱紀)を合併して松雲神社と改め、さらに現社名に改称。大正三年県社に昇格す。境内社に稻荷神社あり、宮司は斎藤嘉範氏。

(津幡町史)

寛文十二年(1672)加賀藩主前田綱紀が鷹狩に当地へ寄り開発を発意、延宝元年(1672)立村したという。藩は笠舞村(現金沢市)の御救小屋から二一軒(初め二四軒)を里子百姓として当地に居住させ、十村の大熊村兵衛門の子伊兵衛にその支配を任じた(改作所旧記)。これを補佐するため二日市村・八田村・利屋町村(現金沢市)、大熊村・小熊村・北中条村・川尻村から七人を出百姓として選び、このうち三人を里子裁許とした。当初太田村のうち堂田という地に長屋を建てて開拓し、太田新村・中条新村とよんでいたが、本格的な村落となり藩によって潟端新村と命名された(河北郡誌)。なお里子百姓の内七軒は利屋町村に居住し、七ツ屋と称した。天保年間(1830～44)家数92(うち頭振67)人数584(「河北郡村々調理書上帳」林文書)。安政二年(1855)家数106(うち頭振60)人数577(「高免家数人数等書上」亀田文書)。

(平凡社「石川県の地名」)

【考察】

・加賀神社境内後部に諏訪神社跡地がある。境内右に摂社・稻荷神社があるが祭神の倉稲魂大神・佐田彦大神・大宮能売大神・田中大神・四

大神は神社誌，郡誌，町史のいずれにも記載なし．

- ・河北郡内に旧県社は，かほく市横山，賀茂神社・内灘町大根布，小浜神社と加賀神社の3座しかない．明治期の村民の作戦勝ち．大変な知恵者が居たもの．
- ・加賀神社の狛犬は向かって右が鬘形，左が阿形になっている（写真4）．竹橋の俱利伽羅神社にも一対ある．

### 祭神の出自と性格

以下に，これまで挙げた六座の神社の祭神と性格について分析する．50音順に示し，祭神を同じくする全国の有名神社も記した（註3）．

#### 1．天照大神 [天神族]

井上三輪神社（浅田）

- 父はイザナギノミコト．皇室の祖先とされている．火の神火伽具土命を生んだため，陰部に大火傷を負った伊弉冉尊は，この火傷がもとで亡くなった．イザナギは黄泉の国へ妻イザナミを尋ねて行き，そこに変わり果てた妻を見る．地上に逃げ帰ったイザナギは，いやな物を見た穢れを洗い浄めるため，筑紫の日向の橘の小門の阿波岐原で禊ぎを行った．左目を洗った時，光と共に生まれた美しい女神．高天原の支配者．別称・天照大御神・天照皇大御神・大日靈貴．
- ・太陽の神・養蚕の神・織物の神・国家安泰，産業繁栄の神
  - ・三重県伊勢市・伊勢神宮・内宮

#### 2．天兒屋根命 [天神族]

三輪神社（北中条）

- 父は興台産靈神．妻は天美津玉照比売命．天岩戸神話に登場する神々の一人で美声の持ち主．祝詞の神．中臣（のちの藤原）氏の遠祖で春日神社の祭神の一人．言霊信仰のルーツ．
- ・国家安康・産業繁栄・学業成就・出世の神
  - ・奈良市・春日大社．茨城県鹿島市・鹿島神宮．千葉県香取市・香取神宮．大阪府東大阪市・枚岡神社

#### 3．倉稻魂命・稻倉魂命 [天神族]

三輪神社（北中条）

- 父は素佐鳴尊．母は神大市比売命．穀物の神．特に稲の精霊とされ，稻荷神社の祭神．「稻成り」の意．伊勢神宮外宮（豊受大神宮）の祭神とよつげのおおかみ とよつげひめのかみ 豊受大神（豊宇気毘売神）またの名を大宜都比売神，保食神ともいう．但し「古事記」ではそれぞれ三柱の神に分けて記載してある．
- ・五穀豊穰・諸産業繁盛の神．
  - ・京都市伏見区・伏見稻荷大社．愛知県豊川市・豊川稻荷．佐賀県鹿島市・祐徳稻荷．

#### 4．応神天皇 [天孫族]

少彦名神社（浅谷）

- 別称は品陀和気命・大鞆和気命．ヤマトタケルの息子である第14代仲哀天皇と，神功皇后の子．第15代天皇となる．母・神功皇后（ときには父仲哀天皇や武内宿禰）と共に全国に2万とも3万とも言われる八幡神社の祭神．（第1位は稻荷神社の3万2千社）百済や新羅から渡来人を受け入れ，新しい文化を招来した天皇．
- ・文武の神．
  - ・大分県宇佐市・宇佐神宮．京都府八幡市・石清水八幡宮．神奈川県鎌倉市・鶴岡八幡宮．

#### 5．大物主命 [地祇族]

井上三輪神社（浅田）・三輪神社（北中条）

- 別称・大穴牟遲神・大国主命・葦原色許男神．八千戈神．父・天之冬衣神．母・刺国若比売命．因幡の白兔の伝説で知られる「大黒さま」のこと．多くの妻と結ばれた艶福家．越の国糸魚川の沼河（ぬなかわ・ぬまかわ）比売命との間に12．健御名方命が生まれた．
- ・国内安定・農業・医薬・温泉・漁業・縁結び・歌舞音曲と窓口は広い．
  - ・オオモノヌシを祀る神社 奈良県桜井市・大神神社
  - ・オオクニヌシを祀る神社 島根県出雲市・出雲大社
  - ・オオナムチを祀る神社 石川県羽咋市・気多大社

6. **大山咋命** [地祇族]

三輪神社 (北中条)

別名を山末之大主神といい、比叡山の山裾の

神。『山王さん』と呼ばれている。妻は、京都の賀茂御祖神社 (下鴨神社のこと) の祭神の建玉依比売命。古事記に「大山咋神は日枝山 (比叡山) に坐します」とある。日枝は日吉とも書く。猿は日吉の神の使い。

- ・ 土木建築・酒造の神
- ・ 東京都千代田区永田町・日枝神社・滋賀県大津市・日吉大社・京都市西京区嵐山宮町・松尾大社

7. **氣長足姫尊** [地祇族]

八幡神社 (南中条) (太田)

別称は息長帯姫命。4. 応神天皇の母。夫の仲哀天皇とクマソを征伐に向かう。夫は敵の矢で死亡。夫に代わりクマソを征伐。余勢を駆って朝鮮の新羅も征伐。凱旋後に生まれたのが応神天皇。神仏習合時代には「聖母大菩薩」と尊称された。聖母を祀った神社は九州地方に多い。聖母宮、聖母八幡宮と称す。地元では「しょうも」「しょも」と読んでいる。16世紀、この地方に抵抗無くキリスト教がいち早く広まった一因かもしれない。

- ・ 子授け・縁結び・安産・商売繁盛・厄除けの神。
- ・ 鎌倉市・鶴岡八幡宮・福井県敦賀市・氣比神宮。

8. **菊理媛神** [地祇族]

三輪神社 (北中条)

白山比咩神のこと。全国には3000社を超える『白山神社』があるが、「古事記」には全く登場せず「日本書紀」に1箇所だけ登場する女神。古代東北アジアのシャーマン (巫女) の系統の説が有力。「くくる」は「水くくる」で「禊ぎ」の意。死霊の宣託を語ったイタコの如き女神。古代アジアのツングース系民族の『白山部』という支族の中で生まれた「白頭山、太白山」信仰が日本に伝わったとの説がある。

- ・ 五穀豊穡・生業繁盛・開運招福
- ・ 石川県白山市鶴来町・白山比咩神社

7-2. **神功皇后**

少彦名神社 (浅谷)

7. 氣長息姫尊の別称

9. **少彦名命** [天神族]

少彦名神社 (浅谷)

父は神産霊日神。オオクニヌシと二人で国造りに励んだ小さな神。「アメノカガビブネ」に乗って光り輝きながら現れた。オオクニヌシが病氣になったとき、大分の速水の湯 (別府温泉) から竹樋で引いて直した (伊予国風土記)。

- ・ 温泉・医薬・国土開発・穀物・酒造の神
- ・ 横浜市緑区・医薬神社・大阪市東区道修町・少彦名神社

10. **底筒之男神・中筒之男神・表筒之男神** [天神族]

住吉神社 (太田)

父は伊弉諾尊。イザナギが死んだ妻イザナミを尋ねて降った黄泉の国から逃げ帰り、筑紫 (九州) の日向の橘の小門の安波岐原で禊をした際、「上流は流れが強すぎるし、下流は弱すぎる。」と言い、中流で身体を淨めた時、水底で底津綿津見神、中層で中津綿津見神、水上で上津綿津見神の綿津見三神。それと同時に底筒之男神、中筒之男神、表筒之男神的住吉三神が生まれた。

- ・ 綿津見三神も住吉三神も航海・漁業の守護神。商売繁盛・縁結び・子授けの神。
- ・ ワタツミ三神を祀る神社 神戸市垂水区・海神社・福岡市東区・海神社
- ・ スミヨシ三神を祀る神社 大阪市住吉区・住吉大社

11. **武甕槌神** [天神族]

三輪神社 (北中条)

建御雷之男神とも書く。父は伊弉諾尊。妻イザナミが亡くなった原因のカグツチを十拳剣で切った際、剣先から血が石に滴り落ちた時生まれた神。タケは猛だけいさまを表わし、ミカヅチは神鳴りである。天照大神は豊葦原中国をオオクニヌシに譲るようタケミカヅチを出雲へ遣わす。オオクニヌシとその子・事代主命は了

解するがもう一人の子・12．健御名方命は断り力較べをするが負ける．タケミカツチはオオクニヌシにその代償として出雲大社を造る．14．経津主命と同神とも言う．

- ・弓矢の神として勝運，戦勝・武運長久祈願，心願成就，海上安全の神
- ・茨城県鹿島市・鹿島神宮・奈良県奈良市春日野・春日大社

12. たけみなかたのみこと **健御名方命・建御名方神** [地祇族]

加賀神社（湊端）  
 オオクニヌシの子．高天原から国譲りの交渉に來たタケミカツチと争い，敗れ，出雲から科野しなの（信濃）の洲端すわ（諏訪）まで追われ逃げた．

- ・土木・開拓・農耕・養蚕の神・狩獵神．
- ・長野県諏訪市・諏訪大社上社・長野県下諏訪町・諏訪大社下社

13. ひめのおおかみ **比咩大神**

少彦名神社（浅谷）・八幡神社（南中条）（太田）  
ひめのかみ **比咩神** 三輪神社（北中条）  
 比咩大神，比咩神は，普通，男神の妻で，特に名が記されていない女神である．

14. ふつぬしのみこと **経津主命** [天神族]

三輪神社（北中条）  
 父は伊弉諾尊．「古事記」ではタケミカツチと同神とするが「日本書紀」では別記している．別称として伊波比主神・齋主神・建布都神・豊布都神・佐土布都神・甕布都神など．

- ・千葉県佐原市・香取神宮・奈良県天理市・石上神宮

4-2. ほんだわけのみこと **誉田別尊**

八幡神社（南中条）（太田）・加賀神社（湊端）  
ほんだわけのみこと **誉田別命** 加賀神社（湊端）  
 4．応神天皇の別称

15. やさかとめのみこと **八坂刀売命** [地祇族]

加賀神社（湊端）  
 11．タケミナカタの妻

おわりに

- ・津幡町の，他の地域の神社境内に見られる石造物は中條地区の浅田・北中条の神社に数基見られるのみ．磐持石は太田住吉神社に2個ある．
- ・北前船の難破の際，神社の大木が目印になり助かった話は，北中条三輪神社にあるが，同様の話は能瀬に非宗教法人『金毘羅神社』にもある．
- ・河北潟周辺の大半の神社は，内灘町小浜神社の斎藤家が管掌しているが，津幡町の斎藤家が管掌する神社はすべて無格社．これは明治期，持宮の十五社制限という制度があって，無格社としたものと思われる．川尻の醫師神社のみ戦後の昭和21年1月10日村社に列した．

（註1）延喜式内 延喜格式に記載された神社のこと．延喜格式は日本の格式編集の最後のもの．延喜五年（905）醍醐天皇の命により，左大臣藤原時平が主宰し編集を始めた．延長五年（927）50巻完成．内容は宮中行事，官庁の事務制度，神祇に関する事等．最初の10巻は神祇制度について記載してあり，巻8は祝詞のりと，巻9・10は神名帳で，全国の官社3,132座（2,861社）を列記してある．それに列する神社は『式内社』と呼ばれ，社格を権威付けられている．

（註2）頭振 加賀藩，大聖寺藩，富山藩および能登土方領で用いられた無高百姓の称．小作・日用取・小商売，大工・木挽，塩師・漁師・船持などを職業とし，なかには富裕のものもいた．

（註3）天神族：高天原系の神，地祇族：出雲系の神，天孫族：神武天皇以後の系統，人物神：上記以外の歴史上の偉人

文 献

石川県神社誌．1976．石川県神社庁．  
 石川県の歴史．2000．山川出版社．  
 河北郡誌．1921．石川県河北郡役所．  
 加賀志徴．1937．石川県図書館教会．  
 河原市用水誌．1996．金沢市河原市土地改良区．  
 津幡町史．1974．津幡町役場．  
 日本歴史地名大系 第17巻（石川県の地名）．1991．平凡社．

歴史の道報告書第1集 北陸道(北国街道) .  
1994 . 石川県教育委員会発行 .(株)橋本確文  
堂印刷 .